

☆ 風の市の冬野菜、果物!!



♪ 大玉(1玉)の白菜が超安いゾ。



♪ 文旦も入荷中。進物にも最適!!

暖かかった秋もようやく過ぎ、やっとならしい寒い日がある 12 月の今日、。考えるともうあと 2 週間で今年も終わりです。駅内 JA 南国市直売所『風の市』にはびっかびかの冬野菜、果物等が勢揃い。左画像の白菜、いくらだと思いませんか?? 何と取材日のお値段が ¥150!!。鍋物なども恋しいこれからの季節、野菜をたくさん摂って健康を増進するチャンスです。右画像は高知の特産果実『文旦』。箱入りでつやつやの特選品は贈り物にもきっと喜ばれます。県外発送も風良里本館にて承り中。画像は出しませんが、もうすでに春物の『いちご』なども季節を先取りで入荷し始めていますよ。お立ち寄りの際はぜひご覧下さい。 ★暮れのお買い物は風の市で!!

猫のしっぽ 収穫。私、風猫子の読書スタイルは『雑食性で興味のあるもののみ』なので、かなり偏った指向になってます。その中で今年一番の収穫はパウル・ベッカー著『西洋音楽史』。古代ギリシャからグレゴリオ聖歌、多音音楽からネーデルランド楽派を経て古典派、ロマン派を通過して 20 世紀前半の新たな転換までを概説したもの。その要諦は『音楽は進化するのではなく、時代によって形式を変容させてゆく表現芸術』ということ。その視点から有史以降の音楽を俯瞰することのできるすごい本。著者は 1937 年没なので、戦前にこのような論点から音楽をとらえた著書が書かれていたとは驚異です。数年前ブームになった白洲次郎のオトモダチでもある河上徹太郎の訳もすばらしく、クラシック門外漢の風猫子も存分に楽しめました。河出文庫刊、激オススメ。風猫子